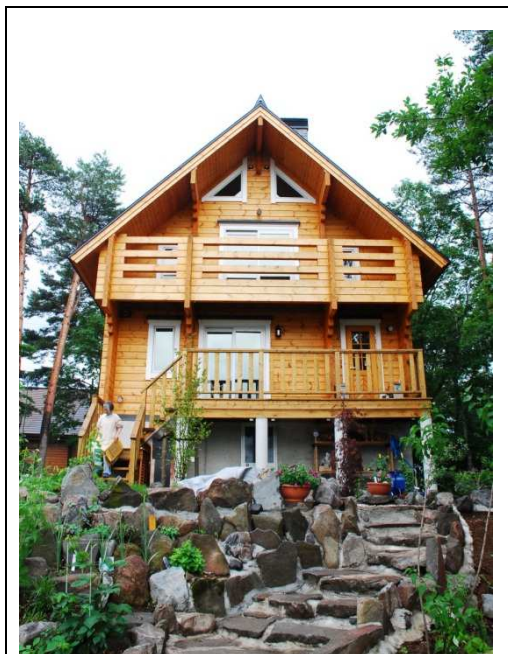


HaksanView にて

井上達男

ダイニングのカーテンを開けると澄み切った北の空、まだたっぷり残雪のある頂上稜線



白山が見えるから HaksanView

をピンクに色づかせたピークが新緑の前山越に姿を見せる。小鳥達のさえずりが近くの森から聞こえる。チッチッと庭先でキセキレイが忙しく尻尾を振っている。彼女はデッキの下に巣作りしてもう半月。妻と二人でまだかまだかと雛の誕生を待っている。

遅い高原の春がやってきた花壇と菜園は降り出した梅雨の恵みに瑞々しい。花を愛でつつ朝取りのキヌサヤ、レタスにコカブを収穫、ナスタチウムの黄花橙花をそえて朝食のプレートが豊かになる。コーヒーカップを片手に刻々と色彩を変え、明るく白黒のコントラストを強めて青空にたおやかな姿の白山が目覚めるのを眺めつつ一日が始まる。

2012年秋から始めた山荘生活は8ヶ月が過ぎた。紅葉が山裾から斜面を駆け下り、新雪が山

頂からの降りてくる白山連峰を日々楽しんでいると早々と冬がやってきた。心配の種だった薪ストーブだけの暖房はログハウス全体を暖めてくれ、2メートル程の積雪と零下15度にも下がる森の越冬を快適に過ごさせてくれた。テレビが桜の開花を知らせる頃はまだ庭に残雪がたっぷり残っている。桜前線北上の知らせにもかかわらず我が山荘の周りは雪解けが進まない。五月連休になってやっと高原に花が咲き出した。それも一時に咲く。梅、桜、桃と開花の順番が決まっているはずなのにここでは皆一度に花開く。

そして山菜の季節が始まった。庭先の蔭の臺から始まる。カンゾウや蓬、コシアブラもたっぷり。先発隊の次は蕨、ウドとタラの芽がやってくる。梅雨に入るとスズノコ(チシマザサの筍)が美味しい。

カッカカッカと赤ゲラのドラミングは森一帯に響き渡る。コゲラはコツコツと下向きに白い花をたくさん咲かせたエゴノキの幹を控えめに突く。カッコウは朝から晩まで絶え間なく鳴いている。飛びながらも鳴いているので行動範囲が良く解る。夕方からはフクロウの出番だ。ヤツは同じ場所に留まっていて鳴き声を段々小さくしていく。野鼠達に遠ざかったと思わせる作戦のようだ。

晩秋の昼下がり、森を散歩しているとカモシカがブッシュの中にいた。唐松の幹に身を隠してそっと覗くと逃げようとしな。かくれんぼを繰り返して5メートルぐらいに近づいてようやく気に入った一枚が撮れた。このあたりはどうやら鹿よりカモシカの勢力が強

いらしい。

鷲ヶ岳スキー場は車で五分。シーズン券を手に入れた。30日滑ることができたらペイすると考えた。昨シーズンは48日にして滑走意欲をなくした。次のシーズンは50日目標だ。

長良川の源流に住むと聞きつけた釣好きの同僚が友釣り道具一式をプレゼントしてくれた。そして庭に生簀を造れと言う。一度練習のために友釣りに連れて行ってもらった。ビキナーズラック、形の良いのが10尾も掛かった。その晩はやって来る息子一家と庭でバーベキューの予定。誰も釣果を期待していなかった。「オヤジ、買ってきたの



別荘地に暮らす?カモシカ。人懐っこい

か?」は親譲りで一言多い息子。天然鮎、遠火竹串焼きの味は格別で疑いは晴れたようだ。ゆっくりと日が傾いて白山の向こうの空が夕焼けに染まる。そして静寂の森に冷氣と漆黒の闇、頭上には無数の星がきらめき、変化に富んだ一日が暮れる。

退職後に山小屋を建てて住むと宣言したら同僚たちは異口同音に「お前らしいな」と驚かなかった。そして「奥さんは大丈夫か」と心配してくれる。スキー場のそばだと言うと「雪が積もったら孤立するだろうな」と雪深いのを思い描くらしい。そして「食べ物はどうする。寒くはないか。電気は、」と生活が気になるらしい。薪ストーブの暖かさや白山の神々しい姿について語っても一向に話に乗ってこない。最後には「定年離婚もあるぜ」と悪友たちは脅しにかかる。

賛成してくれたのは息子たちだ。賄いつき、子守つきの無料別荘ができるというので土地探しからログハウスの設計まであれこれと注文が出た。場所は長良川源流、鷲ヶ岳山麓を選んだ。四季を通じて標高910mの現地を訪問し、環境や建っている別荘の具合を観て廻った。積雪が大きな茸雪となって押し掛かっている煙突、複雑な屋根の窪みに残った雪など、雪対策は重要だと解った。そこで基礎を2メートル高くして屋根は急傾斜で雪おろし不要とした。また、最近、建築基準変更があり、二階建てログハウスが可能になったので早速取り入れた。検討の結果、フィンランド製マシンカット角ログを選んだ。しっかりと風雪に耐えている。木の香りは心が落ち着くし、剥き出しの木目は目に優しい。白鳥町の中心まで車で15分、日常生活に不便はない。

薪ストーブ一つで32坪の二階建てログハウス全体を暖めようと考えた。計算では5kwの出力が必要だったので少し余裕を持たせてノルウェイ製のクリーンバーン8.5kwを選定した。5月11日、越冬が終わり、ストーブの火が消えた。使い始めて7か月間、良く働いてくれた。乾燥薪3,508kgを焚いた。これは生木に換算すると5,396kgだ。妻に一冬寒い思いはさせなかったと思う。

米国赴任で過ごした数年、視野が広がったように思った。国々の多様性と価値観の違いに目覚めた。今は山に住んで都市を観る。また新鮮な気持ちだ。秋の紅葉は見頃だけでなく、日々の変化を知った。ドラマチックな移り変わりにときめきを覚える。また、動物達と出会う機会も大幅に増えた。毎日が発見で飽きることがない。一方、原発事故の問題をはじめ様々な都会ならではの問題や事件を俯瞰する。東京一極集中の世の中、便利さや安心、安全が叫ばれる日々だが、限界を越えてリスクが限りなく増大している。町の人々はそれに気付かなくなったのか。次世代の時代が始まった。元気な団塊世代の一人として少しは世の中に役立つ日々を送りたいものだ。



檜が香ばしいストーブ・ピザ



飛驒の藪山にて